

令和元年度 第2回下野市生涯学習推進協議会議 議事録

- ・ 審議会等名 令和元年度 下野市生涯学習推進協議会議
- ・ 日 時 令和元年10月8日(火) 午後1時30分～3時30分まで
- ・ 会 場 下野市役所3階 教育委員会室
- ・ 出席者 小島会長、井上副会長、高橋委員、石田委員、下山委員、福田委員
鈴木委員、武子委員
【欠席委員】菅井委員、増淵委員
(事務局)池澤教育長、手塚生涯学習文化課長、浅香課長補佐、漆原主査、松岡主事
- ・ 公開・非公開の別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)
- ・ 傍聴人 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録(概要)作成年月日 令和元年10月22日

【協議事項等】

1 開会(手塚課長)

2 会長あいさつ(小島会長)

皆様こんにちは。本日の議題は(1)令和2年度実施事業に対する提案について(2)第二次生涯学習推進計画点検にかかる意見について(3)市民アンケート(案)について、その他、ということになっているので宜しくお願いします。

3 教育長あいさつ(池澤教育長)

皆様こんにちは。暑かった夏もいつの間にか過ぎ、ここ2、3日は涼しくなり、皆様、気持ち良い朝を迎えていることかと思えます。28日、29日はグリムの森フェスティバルで、今回は雨が降らず全日程を消化することができました。まさに食欲の秋・文化の秋ということで、今週の土曜日には市民文化祭があります。それと合わせ、市民体育祭もあります。ここが丁度、天候が危ぶまれるところです。その後は軒並みイベントがあり、20日は生涯学習情報センターまつり、その後の週は市長のいきいきタウントーク、27日には産業祭が南河内球場で開催されます。産業祭は大松山運動公園から場所が変わっても好評をいただいております。当初は車が自治医大駅まで連なってしまう、ご迷惑をお掛けしたこともありますが、現在は、南河内中の校庭を借用したりして開催しております。次の週の11月2日はゆうがおパークでコスモス祭りがあります。そして11月3日は天平の芋煮会があり、同日、グリムの館でN響によるコンサートもあります。そのように何かと忙しく、盛りだくさんで楽しみが多いシーズンを迎える訳ですが、今年は暖冬だと言われております。衣替えを考えている間に既に10月半ばであり、四季折々とは申せ、難しい時期です。今年のお米ですが、収穫量が少なくなっているようです。3年前、雨に祟られた8月でしたが、少し小粒でしたが栃木県は平年作でした。天皇陛下の即位に関連し、大嘗祭があり、栃木県のお米が献上されると

決まったところですが、栃木のお米のブランドがまた新たに出来上がるかなと思っているところです。今日は第三次の生涯学習推進計画に向けて、皆さんのご意見がいただければありがたいと考えております。市のほうも第3回議会が無事終わり、総合計画のほぼ基本的な案がまとまりつつあるところです。それを踏まえないと、下野市生涯学習推進計画の第三次は出てこない。ただ生涯学習については、総合計画があろうがなかろうが、市民の方の生涯学習活動を支援するという意味での羅針盤・チャートとなる訳ですので、道筋に関しては、前回（第二次）の「生涯学習による下野市の文化づくり」を踏まえつつ、第三次計画ではどのようなビジョンを描くかという部分は、新たに考えていただければよろしいのかなと思っています。皆さんにはご意見等を賜ることができればありがたいなと考えているところです。人権講演会についても併せてお願いします。人権週間は開催日の翌週になるのですが、そこにこの講演会を企画すると、他の人権関連の事業と重なってしまうので、今回は前倒しで、特別に設定しました。講師の水谷先生ですが、「夜回り先生」として有名で皆さんもご存じだと思いますが、今回も非常に楽しみにしているところです。南河内公民館の大ホールが溢れんばかりになると思いますが、生涯学習推進協議会の皆さんにも是非、聞いていただけるとありがたいと思います。

4 議 事

(事務局) 議題の進行につきましては会長をお願いします。

(会 長) (1) 令和2年度実施事業に対する提案について、事務局より説明をお願いします。

(1) 令和2年度実施事業に対する提案について

(事務局) 事前に資料のほうはお送りさせていただいているが、改めて、説明させていただきます。

資料1が、来年度の市の実施事業に対する提案になります。皆様からいただいた意見を、事務局ほうで該当すると思われる箇所に当て込んでいったものになります。今年度は、基本目標を絞らずに、全ての施策目標に対して提案をいただきました。まず、子育て、家庭教育に対するご提案で、「親子で「食育」について考えてみるのはどうか。食べ物の大切さ、環境問題や社会的背景を探り、収穫体験や調理実習、施設見学などを取り入れる。また、子ども食堂にかかわるボランティアはどのようなものがあるか、市民一人一人が子どもを見守っていけるような講座を期待する」という提案をいただきました。赤字になっておりますが、(6)として「多世代交流教育」を施策として追加したらどうか、という提案がございましたが、これは計画の追加になりますので、資料2に記載させていただきます。続いて、人権教育の部分で「下野市では、平成18年6月16日に非核平和都市宣言をし、戦争や原爆の記憶を風化させることのないよう平和行政の推進に取り組んでいる。その一環として下野市と壬生町合同の広島平和記念式典に中学生を派遣し、平和の尊さ、戦争の悲惨さについて学んでいると思うが、この項目を是非取り上げていただきたい」というご提案をいただきました。続いて、環境・ごみ問題についての学習の部分で、環境学習の充実ということで

「市内を走る公道（国道・県道・市道等）の一部には、ゴミの散乱や雑草等で課題がある箇所も見受けられる。市民の生活環境改善のため、市民への啓発、協働による環境改善等の施策ができると望ましい」というご提案がありました。続いて、市政についての学習のところで、「市民討論会の開催など」という提案をいただきました。これは、市長とのいきいきタウントークなどが該当するのかなと思います。続いて、文化芸術活動に関する学習、市民芸術文化祭の開催の部分で、「付加価値をつけるなどし、知名度を上げてみる必要もあるのでは、また事業そのものの重量を増やせるよう考える必要がある」という提案をいただきました。赤字になっておりますが、「学習成果の実践の場の提供」として、施策目標として追加したほうがよいのではというご提案がありました。こちららも計画の追加になりますので、資料2で説明させていただきます。続いて、人材情報の提供の部分で、「ボランティアバンクの積極的な情報提供に努め、コーディネート機能のさらなる充実を期待する」ということで、こちらら生涯学習文化課所管の生涯学習情報センターのことだと思います。続いて、「宿題解決C a f e の設置」ということですが、事務局の方で「ふれあい学習の推進」の部分に当て込んでしまいました。ここに該当させていいのかも含め、ご検討くださればと思います。内容としましては、「学校との連携のもとに、外国籍児童・生徒へのサポートができないものか。ボランティアのアドバイザーを置き、助言にあたる」というものになります。続いて、生涯学習施設等の充実に該当するかなと思いますが、「情報化・グローバル化への対応（公共W i - F i の設置拡充）」という中で、「公共施設（市役所・図書館・公民館・観光施設等）に公共W i - F i を設置し、市民は勿論、県内外の観光客、外国籍市民・外国人観光客への対応を進める」、同じく「市立図書館・公民館の機能拡充（ラーニング・コモنزの設置）」という中で、「従来型の貸出型図書館に加えて課題解決型図書館へと機能を拡充するため、一室ないしコーナーを、オープンなラーニングコモنزとし、グループが気軽に協働で調査・学習できる空間とする。ただし、安全管理・静粛性確保の課題も検討する必要がある」という提案をいただきました。続いて、「多世代が交流できる施設・場所の充実」ということで、「交流できる施設・場所があれば、地域にはたくさんの知識・ノウハウを持っている方が多くいるので、自然に交流や学びの場となる」という提案をいただきましたが、こちららも計画の追加になるので、資料2で説明させていただきます。具体的施策以外の提案といたしまして、「国分寺図書館について、図書の展示・学習施設など主要部分が二階にあるが階段しかなく、障がい者の方の二階への移動が大きな問題になっている。障がい者等への学習支援は、大きなネットワークの構築なども考えた推進計画が必要になると思う」という提案をいただきました。以上が来年度実施事業に対する提案になりますが、記載漏れ等もあるかもしれませんので、委員さんの方から追加で提案や、補足説明等がございましたら宜しくお願いします。

（会 長） 以上、事務局から説明がありました。皆さんのなかでご意見・ご質問・提案がありましたらお願いします。

- (武子委員) 下山委員にお聞きしたいのですが、国分寺図書館のエレベーターの件はどうなりましたか。
- (下山委員) 市へ書面を届けたときに、「早急にはできないが、そういう方向で考えていく」というお返事はいただきました。すぐには無理かと思うのですが。
- (武子委員) 前にも言いましたが、都賀町の図書館が国分寺と全く一緒です。一階は階段のみでエレベーターがありません。職員と話したら、「どうにもならない」ということだった。やはり都賀の職員も苦勞しているようです。そういうことは一つで考えるのではなく、下野市なら下野市、栃木県なら栃木県全体のどういう考え方なのか、どうやっていくのかなっていうのも大局的に集めてみてやっていくのも、障がい者への対応には良いような気がします。そのようなことを提案にいったつもりです。
- (下山委員) やはり、お金のことが一番大きいのだと思います。だから私たちも書面を出したからといって、それで終わりではなく、常に言い続けようかなと思っています。
- (池澤教育長) 相当数の公共施設があるので、全部維持していくとなると千何百億かかります。国分寺公民館は来年度、大規模改修を予定しています。きっと素敵な公民館になると思います。図書館もこのまま放っておく訳にもいきませんが、他の大きなプロジェクトも動いております。その中で、早急にはいかないとは思いますが、間違いなく検討はなされていくものとは思いますが。
- (武子委員) 図書館も大きなプロジェクトだと思います。
- (鈴木委員) 資料1は、来年度事業に対する提案であり、計画全体のことでなく、改善だけですので、私は特別ありません。ただ、あえて言えば(6)の多世代交流教育を新しく計画立てしようかということですが、意味としては大切な内容を含んでいるとは思いますが、ただ、公民館も図書館も今は小中学校を含めて、多世代交流・異世代交流を進めておりますので、そのような、今やっているものをここに盛り込むのは意味があると思いますが、その為の別の施設を作るとなるとまだ難しいのかな、という気がしないでもないですね。
- (小島会長) 他に意見がなければ、議題(1)については以上でよろしいでしょうか。
- (一 同) 異議なし
- (小島会長) 議題(2)第二次生涯学習推進計画点検にかかる意見について、事務局より説明をお願いします。

(2) 第二次生涯学習推進計画点検にかかる意見について

- (事務局) 資料2をご覧ください。こちらは、第三次計画策定に向けての現計画に対する意見になります。昨年度はこういった作業はありませんでしたが、来年度、第三次の策定を行いますので、現計画の点検という意味でもこれをお願いしたところです。こちらについても色々貴重なご意見を頂戴しておりますのでご説明いたします。ここからは必

要に応じて、本日お配りしましたA4の1枚の体系図を合わせてご覧ください。

まず、そもそもの「目的と理念」のところで、「目的」の文言を変更したらどうかという意見がありました。現計画の目的は「生涯学習による下野市の文化づくり～学びで創る豊かなしもつけ」であります。この文言を変更したほうが良いのではないかという意見でございます。つづきまして基本目標になります。Iの「学び場をつくる」のところで、外国人（労働者）を対象とした生涯学習施策を追加するという意見がありました。内容としましては、下野市においても多くの外国人労働者が増加しており、治安の悪化の問題も発生しているため、外国人を対象とした行政サービスも必要なのではないか。現在、石橋公民館においてはボランティアによる日本語教室が土日に実施されており、多くの外国人が受講している、というものです。つづきましてI-1「ライフステージに応じた学習の充実」のところで、(6)として「異世代交流事業」を追加するという意見がありました。内容としましては、高齢者のなかには、以前は元気でやっていたのに、今はやる気がないという方もいる。異世代で交流することで、高齢者へ生きる喜びを与え、異世代の方へも良い影響を与えることにならないだろうか。ただしその場合、保育サポーターのような有償ボランティアを検討することも必要である、というものです。同じく(6)として「多世代交流教育」を追加するという意見がありました。高齢者から子どもまで幅広い世代や障がいの有無にかかわらず、多様な人がつながりをつくり共に暮らすことができる学びの場として、多世代交流教育を追加するというものです。続いて、I-3の人権教育の部分において、現計画だと「人権教育」の記載しかないが、それぞれの項目に対して非常に力を入れているのでカッコ内の項目を、「人権」「男女共同参画」「国際理解」という風に、それぞれ項立てしてもよいのではないか、という意見がありました。つづきまして、IIの「学びを活かす」というところにおいては、「学習成果の実践の場の提供」を追加する、例えば、ごみ問題や道路について学んだ人が、実践活動として、道路へのポイ捨てが多い所に、立てる標語を考えるなどの実践の場を追加する、という意見です。つづきまして同じくII-3-(1)「庁舎等におけるコンサート等の実施」について、担当課に議事課も入れるべきという意見がありました。今はこの項目には生涯学習文化課の記載しかありませんが、議場コンサートをやっているため、議事課も入れてもいいのではないかという意見です。裏面をご覧ください。IIIの「学びを支援する」の部分で、(5)として「多世代交流・共生の学びへの支援」を追加する。多世代交流会の実施。少子高齢化の時代になり、近隣との関係が希薄になっているため、子どもから高齢者までを対象とした支援になります。担当としては地域包括支援センターや社会福祉協議会が考えられる、という意見がありました。つづきましてIII-4、生涯学習施設等の整備と充実のところで、(3)として「多世代が交流できる施設・場所の充実」を追加する。理由としまして、交流できる施設・場所があれば、地域にはたくさんの知識・ノウハウを持っている方が多くいるので、自

然に交流や学びの場となる、という意見でございました。また、計画全般に関しても様々なご意見をいただいておりますので、ご紹介します。「市民アンケートの対象は、選挙権・成人年齢引き下げに対応し、18歳以上とすることが望ましい」、「現計画・前計画策定に際し徴取したアンケート結果にも、参考になるデータや意見が多くあるので、それらを丁寧に踏まえることが市民ニーズにつながる」、「理念①②③からすれば、本来であれば基本目標は、Ⅰの「学び場をつくる」、今はⅢになっておりますが、「支援」して、Ⅱの「活かす」という構造とも考えられる。活かすことが目的化してしまうと市民によっては近づきがたい面もあるのではないか」というご意見もいただいております。また、「前回の市民アンケートでは、『エール』の認知度が低かったので、これは自治会に未加入の方もいるのでこの結果かと考えられる」、という意見もありました。いただいた意見は第三次計画に入るか入らないかも含めて、来年度検討してまいりたいと思います。こちらの意見についても委員さんの方から補足、追加の説明がありましたらお願いします。よろしくをお願いします。

(小島会長) それではただ今の事務局の説明の中で、ご意見・ご質問・提案などがありましたらお願いします。

(福田委員) 私は(6)の「異世代交流事業」を提案しましたが、どうしても高齢者だと高齢者、家庭教育だと家庭教育という風に年代で取り上げられてしまうので、色々な年代の方と一緒にやっていただきたいという思いで書きました。町の中を歩いていると、以前は活動していた方で、今は力なくなってしまったという方が多いので、若い力を借りながら元気になってもらいたいなと思います。

(井上委員) 私も同じような感じになるのですが、「多世代交流教育」ということで、今までだと、例えば、幼児・青少年・成人というように区分されてしまう。高齢者教育も別れてしまう。しかし、現在、国のほうで推奨している共生社会の理念からすると、分けるのではなく、子どもから大人、身障者等色々な条件の方を、地域皆で支えていこうという教育もこれから必要になってくると思うのです。今年度とか来年度ということではなくて、少しずつ計画の中に入れていけばいいなと思います。「学びの場をつくる」なども特別に場所を用意するのではなくて、公民館のロビーの隅等、場所を限定しなくても、「自分はこういう教育ができますよ」という方たちで推奨していけばいいのかなと思います。赤字の部分を考えてみました。

(小島会長) その他に何かありませんか。

(鈴木委員) ではちょっとよろしいですか。お二人の意見に私も賛成なのですが、施策目標にある「ライフステージに応じた学習の充実」、それが本当に必要なのかどうかですよね。「ライフステージに応じた」という区切りが必要なのかどうか。それ以外のものについては全部、年齢を区切っておりません。どういうことかと言うと、少し別な視点ですが、実はこのところにだけ「教育」という言葉が入っています。あとは生涯学習なので

全て「学習」です。こここのところにだけ教育と使われておりますので、昔のいわゆる「生涯教育」の時代の名残りなのかなと。どちらかというとならば世代ごとに区切って、少し悪い言葉で言うと、「教育しますよ、だからそういう教育されたい人は集まってね」と、そういう風なイメージだと思います。生涯学習というのはそういうものではなくて、個人の学習意欲に基づいて、ソフトとハードを組んで進めていくものなので、私も、難しいのですが、これをどういう表現がいいのか考えました。そうすると、今お二人から出たように、あえてライフステージごとに置くことはないのかなという気もするのですが、実はそれをやってしまうと今の公民館講座を根本から覆すことになってしまいます。今まで受講されている方や今度のアンケート調査結果等、そういったことを踏まえながら慎重にやっていかないといけないのかなという感じはしています。

(武子委員) あまり複雑にしないほうが良いと思います。もっと単純に井戸端会議のような場というか。この「場をつくる」というのも、前回の計画である程度までできているような気がします。だから「場をつくる」ということをなしにする必要はないでしょうが、もう少し力を抑え、「下野市の独自の文化を創る」というような方針に変え、これからは「活かす」「支援する」に力を入れていったほうが、今度の計画は充実するのではないかと思います。

(小島会長) 他にどなたかご意見のある方はありますか。

(池澤教育長) 少し補足しますが、寺中作雄さんの日本型の公民館の構想がスタートして、社会教育法ができて、その法律に基づいて公民館法が作られているので、社会教育法からすればこの「ライフステージに応じた教育活動」となり、公民館がそもそも社会教育法に基づいて建てられた館であるということは否めないのですが、イギリスのコーヒーハウス、まさにここで皆さんが言っている「宿題解決C a f e」の設置ですが、やはりこの発想を入れてこないとならばダメなのかなという部分があります。先日、国分寺公民館に生涯学習文化課の職員と一緒にいき、大規模改修にあたり今できることとして、入ってすぐのところ、変化があったことに気が付いたでしょうか。衝立があったのを取っ払い、談話室のようなスペースにしました。また、受講生が来た際に座って勉強ができるように、また、自主サークル等が集まったときに作戦会議や打ち合わせ会議ができるようなスペースにしました。南河内公民館もロビーに学習机やスタンドを置いたりしました。南河内公民館は自動販売機があるので益々良くなり、中高生が集まったりしています。そのようなカフェ的な部分を導入していかなければいけないのかなと思います。学校評議員制から学校運営協議会に変えて今年で2年目ですが、あと2、3年が経ち、多世代交流をしていく中で「学校運営協議会で何をやるの」となったときに、学校運営協議会のOBの方も出てきますので、各中学校区ごとに学校地域協働活動推進本部を皆さんで作っていただけませんか、という風に進めていきたいと思っ

ています。これが、まさに「地域とともにある学校づくり」の核になっていき、地域で子どもを育てるという意味で非常に有効な力を発揮していただけるのかなど。そこで、今年で4年目になるのですが、夏休みを利用して「いきいき学び塾」というものを始めました。サポートセンターの先生方が4つの中学校に行き、学校の先生方と力を合わせ、市の指導主事7人とともに役割分担をしながらやっています。一週間ぐらい夏休みに学習の支援をしております。今年は500人近く集まりました。小学校も同様に、市内には小学校が11校ありますが、5つの学校でやったところ、大体1,200人ぐらいの子どもが夏休みの宿題をやりにきました。学校地域協働活動推進本部ができれば、ボランティアの人を募り、この取り組みを行うこともできる。2年前、はじめて中学生議会を開いた際、石橋中学校から、「私たちも自由に学べる場がほしい」という声があり、石橋中学校でも、9月以降になりますが、部活が終わったあとや塾に行くまでの間など、学校で学びの場を提供しています。ここも常に3、40人が勉強しているという状況です。そういう意味でのサロンのようなものが公民館や図書館にもあっていいだろうと思うし、小山市のロブレなんかでもブースが上手い具合に作っており、100人ぐらいが勉強できるようになっています。栃木市に行っている子どもや宇都宮市に行っている子ども等、上手に時間を使い、そこで勉強している子が相当数おりますが、サロンのような、そこに行けば誰かに勉強を教えてもらえるし、人生相談もできるし、という部分が出来上がっている。ここは公民館のエリアです、ここからはあなた達のエリアですよという部分はもうない方がいいと思うし、そういった意味では、これからは国策としても、遠くからの人を受け入れないと日本の社会そのものがやっていけなくなってしまうので、外国人が大勢来日します。親が来れば子どもも来る訳です。そのような中で、現在、日本語教室は市の国際交流協会の方々がボランティアで石橋公民館を使用してやっているだけです。7月に、公民館の社会教育指導員に対し、来年度の事業計画を作成する際には日本語教室のような取り組みを公民館で立ち上げることでできないか、と話をしたところですが、やはり下野市としてここは手つかずの部分です。学校教育でも同じで、日本語教室はありません。また、それだけの需要と子ども数もないので、要求・要望はしていません。しかしやはり、準備段階として、次の三次計画の中にはしっかりと異年齢交流活動と、外国人へのサポートや外国人をどう理解していくかという、学習の場・交流の場、それが絶対必要になってくると捉えています。国際交流協会の方々や国内交流協会の方々に任せおく時代ではもうないだろうと思っておりますので、そういった部分を遠慮なく、こういう構想もあるぞ、こうした方がいいのではないかと、というところを是非、ご指摘いただければと思います。宜しくお願いします。

(小島会長)

ただ今の教育長の話の中で、何かありますか。

(鈴木委員)

今の教育長の言われたことは是非実現して、進めていただければありがたいなと思っ

ておりますが、現在、国際交流協会は南河内のグリーンタウンコミセンでも土日だけ日本語教室やっています。グリーンタウンコミセンと石橋公民館の両方でやっていますが、国分寺のほうではやっていないですよ。そういう地区バランスというのもあります。私もよく見かけますが、結構、外国の方はいらしています。特に若い人が多い。若い人が大体19時頃自転車で帰ってきます。農道を1列で帰っていく様子を見ると、あの人達はお休みの日はどうしているのだろうか、と思います。日本国籍の人はスポーツ、文化活動なんかやっていますが、外国の方はなかなかやっている様子は見られない。お仕事でそれどころではないかもしれませんが、そういった人たちと一緒に何かができる場とか、ソフト的なものは今後進めていく必要はあるのかなと思います。先ほど教育長から話があったような色々な所に、外国籍のお子さんが自然に友達と入っていったり、呼ばれたりするといいのかなと思います。

(高橋委員) 今、緑小には外国から来ている子がいて、誰もその母国語が分からない。家では母国語で喋っていて、お母さんは少し日本語が分かるので、お母さんが分かる範囲の日本語で、お子さんと話していますが、意味が分からない日本語が多い。担任も困惑している。そのような中で、月に数回ですが、生涯学習情報センターからボランティアの方に来ていただいている。その方もその子の母国語を話せる訳ではないのですが、日本語のこの言葉がどういう意味かというのを身振り手振りや、時には場所を移動してみたり、「この言葉はこういう時に使うんだよ」とジェスチャーで教えている状況です。

(武子委員) それしかないと思います。私もベトナムからの研修生と20日間程度仕事したことがあります。稲刈りと田植えをしたのですが、ベトナムから来ているので、英語は少し喋れるのかなと思っていました。私もカタコト程度ですが、結局どうにもならないので、手振り身振りで会話を行いました。二人が来たのですが、一人は一生懸命日本語を手帳に書いて覚えようとしているのですが、もう片方の人はあまりやる気が見られない。だからどうにもならなかった。もっと若い外国人同士で交流できるような環境があるといいかもしれないですね。

(鈴木委員) 日本人との交流を通じて、「ここで仕事してよかった」という思い出をもって帰ってもらうなど、そういうことも大切だと思います。そういった意味では、今の基本計画の中では、人権教育の中に「国際理解」と書いてありますが、もう国際理解のレベルではなく、今は「共生社会の実現」です。共生社会を実現するためには・・・となっていくべきだと思います。国際理解という言葉自身もあまり使われなくなっているの、そういったところを少し検討する必要もあるのかなという気はします。

(石田委員) 先ほど教育長から、下野市では学校教育の中で外国人だけを集めて何かを行う、という学校はないという話がありましたが、小山市は取り組んでいます。そのときに非常に苦労したのは、学校教育の中では色々やるが、子どもたちが持っていった文書を保護者が分からない。今後は、そういうところが非常に問題だと思います。子どもは分かって

いても、それを分からない保護者に対するサポートをしてくれる先生が学校にいるなど、そういったサポートも必要ではないかと思います。先ほど石橋公民館のご意見もありましたが、私は今、南河内公民館で勤務していますが、石橋公民館は利用者で満杯です。管理していると色々問い合わせの電話があります。ボランティアさんに聞くと「(希望者が)多くて引き受けられない」ということもありました。ボランティアさんもアップアップな状況です。これは市民協働推進課にもお話しさせていただきましたが、ボランティアさんの育成をしないと非常に大変だと思います。ボランティアの方も民間にお勤めしていたとき、中国や東南アジア系に2、3年行ってカタコト程度の言葉を覚えてきた方です。これから非常に多くの外国人労働者が下野市に来ると思います。以前、外国人親子が来て、お断りした姿を目の当たりにしているので、もう少し、労働者を含め外国人に対する教育も必要だと思います。先ほど教育長からご説明がありましたが、南河内公民館は今、非常に充実しています。夜も日曜日管理させていただいていますが、日曜日ロビーなどで会議する分には使用料はかかりません。「ロビー貸していただけますか」と尋ねられたら「大丈夫です。使用料はかかりませんから、どうぞお使いください」と答えています。やはりお茶を飲みながら、会議をしたいのだと思います。また、お父さん、お母さんが帰ってくる間にお婆ちゃんと子どもさんがロビーで宿題をやっています。勉強机が4つ、ちゃんとスタンドもあり、電源も取れます。あそこで日曜日、高校生も勉強しています。まして、夏は暑いので、冷房もあり非常に充実してきています。そのようなことが浸透してくればなと思います。リピーターが多い傾向もあるのですが、これがどんどん浸透していくと、ここでの宿題解決C a f eとかにも繋がっていくことだと思います。私は南河内公民館を非常に高く評価しています。

(鈴木委員) 私は図書館も、従来の文学中心の貸出型施設から、宿題や調査をする場所にだんだん変わってきていると思います。「図書館は一步入ったら静かに」というのではなく、多世代の方が交流できる場、フリーに使える場、交流しながら広く調査できる場として変わってきているという感じはします。また、第三次の生涯学習計画の策定にあたってですが、もう既に十分良い計画ができていますので、組み換え程度かなという気持ちもありますが、この計画をよく見てみると、国がやるべき計画・県がやるべき計画・市町村がやるべき計画があると思います。しかし市民というのはイコール県民、イコール国民ですので、県・国と連携・分担して、これは市でやるもの、これは県でやるものだと、少し精査してみる必要もあるのではないかという気がします。そういった意味では先ほどあったように、外国籍の子どもや高齢者への対策というのは、既に自治体間競争になっていますので、本当に市で進めていけないといけないのだと思います。それと関連して、この全体構成ですが、まず、総合計画の目的と理念があり、基本目標の「Ⅰ学びの場をつくる」が一番大きい。ソフト面です。一番下に、バックアップである「Ⅲ学びを支援する」があります。その結果として、学びを活かしていただきたいということです。そういう構造なのかなとい

う気がします。そういう意味では、「Ⅰ 学び場をつくる」「Ⅱ 学びを活かす」「Ⅲ 学びを支援する」というのは順番からするとちょっと違うのかな、という感じがしないでもなく、ソフトとして学び場をつくり、ハードとして学びを支援し、結果的に学びを活かせる人が出てくる。それが下野市の文化づくりにもなるし、文化の創造に繋がっていくという感じがしないでもないです。ですから、実情として、「Ⅱ 学びを活かす」に関することがなかなか膨らまないということもありますので、少し構図を見直してみても宜しいのかなという気がしています。少し、矛盾したようなことを言って申し訳ないのですが、実はこの「学びを活かす」ということを前面に出してしまうと、生涯学習とは結局、「何か社会貢献しないといけないのか」、「美術とか絵画とかをやったら必ず発表しなくちゃダメなのか」となる。そうなってしまうと、また、閉じこもり型の趣味になってしまいますので、そこは警戒しなくちゃならないと思います。最近、シルバー大学校の人气が低迷してきました。どうしても「活かす」と言うと、社会貢献していただきたいので、そのような内容の講座がほとんどになってしまい、趣味・教養的なものは全て、「部活動として放課後やって下さい」ということになる。そのようなことで、皆さん放課後には熱心なのですが、肝心の、県が一番やってほしいことについては欠席者が多い、という風にもなりますので、生涯学習というのも十分バランスを取りながらやっていかなくちゃならないと思います。「活かす」を余り強く出すというより、適度に出しながら、充実した人生を送ってもらえるようなバックアップが行政としてできないかなと思います。今すぐというより、全体論の話ですが、第三次計画を作るとなると、「じゃあ第二次計画ってどうだったの」と聞かれます。第二次計画の成果と課題というか、「ここまでは出来ました」、「ここまでは課題として残ったので第三次計画に入れました」と、そのような構造だと思うのですが、「学びで創る豊かなしもつけ」ということですので、「ここまでは成果として出ました」しかし「このところが少し厳しかった」という分類も何らかの形でしていかないと、第三次計画を出し、「これはなにで作ったの」と言われたときに、審議会とアンケートと言われても、そのイロハはどうするの、となる。難しく考える必要はないとは思いますが、そのあたりの議論もある程度はしていかなければならないのかなという感じはしています。

(事務局) 今のご意見も踏まえて、今後検討してまいりたいと思います。

(石田委員) 今の鈴木委員からあった基本目標のⅠ、Ⅱ、ⅢをⅠ、Ⅲ、Ⅱに入れ替えるという話ですけど、この場で検討はしなくていいのですか。あくまで事務局で考えるということですか。

(池澤教育長) 実際に策定するのは次年度になります。案として今回このような意見が出て、組み替えるところこういう形になり、教育の社会還元、学ぶ活動を広げる、学習ボランティアを増やすなど、この構図が色んな部分に絡まってきますので、「目指すものは何か」

という下野市の将来像という部分に最後は影響してくるのだと思います。前回策定時は、生涯学習を活発にして下野市の文化づくりの中で豊かなしもつけにしよう、ということで、17、8個、キャッチコピーが出ました。その中で選ばれたのがこの「生涯学習による下野市の文化づくり」という目的です。「学びを活かす」の中の「庁舎等市民ギャラリーブースにおける発表展示」など、まだ新庁舎ができていなかったのにも関わらず、その取り組みが出ました。提案したときに「こんなことできるのか」という意見もありました。「いや、やるべきだ」とこの会で言ったのを覚えています。スタートとして薪能をやり、大々的にいきました。その後、自然に、ギャラリーにおいて彩友会さんがやったり、その前は木版画展をやったり、コンサートなどもやりました。去年は南河内第二中の吹奏楽の演奏がありました。今思えば、ここに明記されている具体的施策を本当に実現しているな、という部分が見えてきています。計画を作ったときはどういう姿が見えるのかがなかなか分からなかったのですが、そういった意味では、「学びを活かす場」というのがいよいよ成熟してきました。そういう視点をもって、じゃあ図書館ではどうする、公民館ではどうする、そういう風に考えていくと、ギャラリーの活用という発想も出てきます。その他にも、生涯学習情報センターの在り方も含め、あとはグリムの館などの活用もあります。あとは学校の活用もあります。今回、石橋中学校が大規模改修のため使えなかったのも、初めて小中学校音楽祭を南河内体育センターでやらせてもらいました。非常に有効に使えたと思っております。そういう意味からも、学び場をつくり、支援して、活かして、そしてそれをどこに持っていくのか。それで終わりなのか。それはそれで自己実現したことにはなりますが、協働のまちづくりに繋げたいという意図が我々にはある訳です。男女共同参画を理想とする社会づくりに繋げていこうとか、人権が尊重された異文化交流が盛んにおこなわれる、そんなまちにしていこうじゃないかという、最後の4つめ（基本目標Ⅳ）がここに出てきます。だからそういう部分で、公民館が集まって、学んで、広がるという自主サークルの三層構造ができていっている部分もありますし、その辺を踏まえて、市の生涯学習はどうあるか、という構造論的な部分のご提案が、鈴木委員からあったものと捉えています。やはり、4番目が必要になってくるなという見方をして、今聞いておりました。

(武子委員) 現計画を作るのも大変でしたよね。

(池澤教育長) 策定から5年経ち、いい計画ができた実感しています。

(鈴木委員) 私は今教育長がおっしゃった4番目を、目的と理念にタイトル付けしてしまったほうが、広く使えますし、「結論がそこになります」と言うことができます。

(池澤教育長) これが目的になるというのを皆さんで共有したい。キャッチコピーも前回初めて作りました。目標4が目的と理念に入るとなると、キャッチコピーが非常に重要になってくる。私は今年6年目なので、これとともに歩んできたという思いもあります。そ

ういった意味ではしっかりとした計画・体系図になると嬉しいと思う訳です。

(鈴木委員) 次のアンケートに関することがキーポイントになってくるという感じがします。

(小島会長) では、他になければ次に進みたいと思いますが、いかがですか。

(一 同) 異議なし

(小島会長) では、資料3になりますが、下野市生涯学習市民意識アンケート調査(案)ということで、事務局より説明をお願いします。

(3) 市民アンケートについて

(事務局) 資料の3-1をご覧ください。こちらが、来年度に入ったら、なるべく早い段階で市民の方をお願いするアンケートのたたき台になります。基本的には前回、平成27年度にとった内容をベースにしております。というのは、大幅に内容が変わってしまうと前回は何パーセントであったとかの比較ができなくなってしまい、一貫性がなくなってしまうので、基本的には内容は27年度のものをベースとしております。ただし、若干修正とか追加しておりますので赤字が修正あるいは追加した箇所になります。内容について、説明させていただきます。

まず、アンケートの対象を18歳以上にしようかなと考えております。前は二十歳以上だったかと思うのですが、たたき台として18歳以上とさせていただきました。また、冒頭に生涯学習の概念に記載させていただきました。2頁をご覧ください。「あなた自身のことについて」、前は「性別についてお尋ねいたします」だったところを、最近では個人の性意識に対する配慮も色々求められておりますので、「あなたの自認する性別をお答えください」とさせていただきました。これは最近、市民協働推進課が市民アンケートを行ったのですが、その設問を参考にさせていただきました。問2の年齢に関する質問で、18歳~29歳にしたのと、色々なアンケートを参考にし、「70歳代」を「70歳以上」とし、「80歳以上」を削除とさせていただきました。問4も少し文言を変えてみました。こちらも市民協働推進課のアンケートに合わせてみました。大きな2になりますが、「生涯学習に対する考え方について」ということで、これは前回と全く同じになります。これは削除することはできませんので。問6で「あなたの持つ、「生涯学習」に対するイメージはどのようなものですか」というのがありますが、他の市町のアンケートを見ても、このような設問はありません。何のためにこの問を設けているのかな、ということもあり、削除とさせていただきました。問7は新規の質問で、「あなたは、生涯にわたって学習を続けることは必要なことだと思いますか」ということで、他の市町も参考にし、追加させていただきました。大きな3は、「生涯学習の現状について」ということで、問8-1として、「あなたはこの1年間の間にどのような生涯学習活動を行いましたか」8-2で「あなたが新たに行いたいと思う生涯学習活動は何ですか」と質問させていただいております。4頁をご覧ください。問9から11までは先ほどの質問で「この1年間の間に生涯学習活動をしたと答えた方にお聞き

します」ということで、問9で「あなたは、どのような場所や形態で生涯学習活動を行いましたか」、公民館やカルチャーセンターとか、学校の公開講座とか通信教育とか、また、今回18歳以上を対象にしておりますので、「学校の正規課程」を追加させていただきました。図書館や博物館等も追加しました。次の質問で、「あなたは、学習活動を通じて身につけた知識・技能や経験をどのように生かしていますか」で、「仕事や就職の上で生かしている」という項目を追加しました。5頁をご覧ください。問10と問11は全くの追加の質問になりますが、「あなたが、生涯学習をしている（した）理由は何ですか」、これは回答は3つ以内にさせていただいております。問11で、「あなたは、生涯学習を通じて、人間関係や生活等に変化はありましたか」という質問を入れております。次が、この1年間の間に学習活動をしていないと答えた方にお聞きします、ということで、この1年くらい学習活動をしていない、できていない理由を質問しております。「家事や育児、介護などが忙しく時間がない」、「必要な情報が得られない」などを追加しております。6頁をご覧ください。ここからは、1年間の間に学習した方でも、しなかった方でも、すべての方にお聞きしますということで、問13ではよく利用する場所を、問14では市内の学習活動に関する情報収集の方法を尋ねています。問15では、市が提供している生涯学習活動の情報についてのご意見をお伺いしております。7頁の問16では、生涯学習活動に関し、どのような情報を望むか、これは前回と同じです。大きな4として、学習成果の活用について質問を設けております。問17の「あなたは、学習活動を通じて身につけた知識・技能や経験を地域や社会で活かしたいと思いますか」ですが、前回は「地域や他の人のために」でしたが、「地域や社会で」と変更しております。問18は「学習活動を通じて身につけた知識・技能や経験を地域や社会で活かすには、どのようなことが必要だと思いますか」となっております。問19では、問15において「どちらかといえば、活かしたいと思わない」、「活かしたいと思わない」と答えた方へ、その理由を聞いております。「活かすことのできるまでの段階に達していない」、「どのように活かせばよいかわからない」、「一緒に活動する仲間がいない」、「あくまでも自分の楽しみが目的である」などを追加しております。大きな5となる「生涯学習を通じた地域づくりについて」ですが、前回のものだと大きな4の「学習成果の活用について」に、この問20-1と問20-2は入っていたのですが、内容が地域や社会に関する事なので、改めて大きな5としてみました。「地域づくり」という言葉が、ふさわしいか分からないところもあるのですが。問20-1では「あなたは、この1年間の間に、地域や社会の活動に参加しましたか。該当するものすべてにチェックをつけてください」、問20-2では、「あなたは、地域や社会でどのような活動に参加してみたいと思いますか。該当するものすべてにチェックをつけてください」とさせていただいております。問21ですが、これは全く新規の間になりますが、他の2、3の市町のアンケートを見てみたところ、このような設問があったので、「生涯学

習を通じて人と人が学び合い、交流することによって、地域や社会の課題解決につながると期待されています。今後、生涯学習をもっと盛んにしていくために、下野市はどんなことに力を入れるべきだと思いますか」と追加させていただきました。問22は、このアンケートで公民館のことにも触れていたほうが良いと思いましたので、「公民館は、地域活動の拠点として、地域住民にとって身近な施設です。あなたは、これからの公民館がどうあってほしいと思いますか」を追加させていただきました。最後の質問は自由意見となります。

以上が、個人に対するアンケートになります。続いて3-2の資料をご覧ください。こちらは団体用になりまして、公民館の自主サークルや生涯学習情報センターの登録団体、活動団体に出すアンケートになります。こちらにつきましては、特段変更する必要もないのかなと思いますので、一度目を通していただければと思います。以上です。

(小島会長) ありがとうございます。今の事務局の説明で何かありましたらお願いします。

(井上委員) 個人用のアンケートについて、2頁の「あなたの自認する性別をお答えください」ですが、女性でも男性でもない「その他」の項目も必要ではないでしょうか。以前、別のアンケートで「書く欄がない」という意見があったと聞いています。これからのアンケートは男性・女性と決めつけしないで、「どっちだろう」と迷っている方にも対応しなければいけないのがひとつあります。もうひとつは、問2の年齢のところ、「80歳以上」は削除検討となっておりますが、私の知っている80歳以上の方で、とても元氣で活躍されている方がます。今の日本は前期高齢者よりも後期高齢者が2、300万人以上多い時代です。そうすると、この「80歳以上」も入れておいてもいいのかなという気がしました。

(鈴木委員) 私も今の意見に賛成です。これからは「人生100年時代」な訳ですから、是非、その分類も入れていただきたいなと思います。そもそも申し訳ないのですが、2、000人に出すというのは何か理由があるのですか。回収率との関係でしょうか。

(事務局) アンケートは回収率との兼ね合いで、2、000人以上の集計をもってでないと、アンケートとして値しない、というところもあると思います。どのアンケートを見ても2、000人以上にはなっています。

(鈴木委員) アンケートの信頼度を高めるという意味ですね。1、300程度は実数として集まらないと、統計上「それは違う」と言われてしまうこともあったと聞いたこともあるのですが、2、000人に発送して回収率はどれくらい見込んでいるのですか。

(事務局) 前回の回収率は28パーセントでした。

(鈴木委員) 大体3割ですね。2、000人で3割だと600人ぐらいですか。600人ぐらいのご意見ということですね。1、000人以上を集めるにはこの倍出さなきゃいけないので、事務上、困難とも思います。ただ、2、000人にした理由は説明できるようにしておいた方がよろしいかと思います。少し細かいことで申し訳ないのですが、問3の、

南河内、石橋、国分寺というこの順番は、何か理由があるのですか。建制順か何かで決まっているのですか。

(事務局) 合併したときに、このように決められているかと思います。

(鈴木委員) 要するに建制順だとかこういう順番になるということですね。理由を問われたときに答えられるようにしておいたほうがいいですね。また、問4の職業の欄ですが、自営業やパート・アルバイトは良く分かります。ただ「専業主婦」の方は職業的には「無職」になるのではないですか。色々議論はあるところなのですが、「それによって収入を得ている」ということを職業の定義にすると。

(事務局) 9月に、市民協働推進課でとったアンケートでは、「専業主婦」と「無職」は並記してありました。

(鈴木委員) これも男女共同参画の話になると思うのですが、女性の方は「専業主婦」にチェックをつけやすい。無職ではなく、専業主婦であると。これは、職業を尋ねる必要があるのかということに関係してくると思うのですが。

(事務局) ここでは「属柄」を聞こうと思っております。

(鈴木委員) やはり属柄に職業を入れるかどうかということですよ。というのは、現在、公民館活動などに非常に熱心な方は無職の方と、いわゆる専業主婦の方がいます。今、私たちは、そうじゃない方に是非来ていただきたいと思っている。先ほどの話からすると学生諸君とか子ども達だとか。色んな世代の方にご参加いただきたいということを背景にすれば、あとの質問で、「参加できないのは何故ですか」という質問がありますよ。「忙しい」とか「きっかけがつかめない」という回答はありますけど、私は、そこに合わせて、「講座を開講する時間や曜日は、いつが良いですか」という質問を入れないと、「こちらが開講する時間に合わせられないのですね」というだけになってしまう。ですので、そういう質問も入れていただけるとありがたいなと思います。どのような結果になるかわかりませんが、朝から晩まで必要になるのか、曜日に関しても土日のほうが多いのか、それともウィークデーのほうが多いのか。では、なんでウィークデーのほうが多くなるのかと言えば、比較的自由の取れる、いわゆる専業主婦の方といわゆる無職の方、またご高齢の方なら参加しやすい、ただ、そうすると全世代型にはなっていない、という矛盾もあります。それから3頁の「あなたは、生涯にわたって学習を続けることは必要なことだと思いますか」ですが、これはなかなか厳しい質問だと思います。「学習」というとどうしても学校教育を連想されますので、「学び続ける」程度にしたほうが良いのではないですかね。

(下山委員) 「学び」のほうがやさしいですね。

(鈴木委員) そうですね。それから4頁ですが、「自宅での学習活動」は読書とか創作ですよ。そのあと、いきなり研究となっているのですが、「調査」というのも入れてほしいなと思います。色々検索している人もいますので。それで勉強している方もいっぱいいます。そ

の下の「パソコンやインターネットなど」とあり、何かダブっているような気もするのですが、これは手段ですよ。パソコンやインターネットを使ってやっているということ。通信教育はパソコンやインターネットを使って行うものです。何か、手段が入っているのはちょっと違うのかなという感じもしないでもないですね。また、「学校の正規課程」とあるのですが、これはもっとやさしく、「学校での授業や講座」としてもいいかなという気もします。正規課程という用語はあまり一般用語ではない。またその下、問の9の回答の中で、「他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に生かしている」とありますが、そこまでのレベルじゃないという方もいるので、「交流や指導」とかにすれば、参加することで生かしていますよと、○をつけやすくなるという感じはしました。5頁のところをいうと、「忙しくて時間がない」という回答があるので、どの程度のニーズがあるのか分からないのですが、「どの時間帯、どの曜日なら参加しやすいですか」という質問も入れていただけるとありがたい。それから、6頁に「自治会の公民館」と「市の公民館」とありますよね。確かにそのとおりなのですが、アンケート対象は2,000人おられますので、色々な方が受け取られ、アンケートも長いので、ずっと見ていくと混乱してしまう方もいる。また、公民館というと自治会公民館しかイメージしない方も中にはいらっしゃる。旭公民館とか谷地賀公民館とか。ここで市の公民館と並記してあるので「あれ」と思ってしまう方もいると思うので、少し検討してください。同じくその下の問で、エールなどの情報をどのように得ていますかとありますが、市のホームページといえばインターネットに決まっていますよね。スマートフォンから見ている人もおられます。新聞・テレビ・ラジオも最近はインターネットで見ている人もいます。インターネットというのは手段なので、少し気になりました。最後の10頁の間21ですが、「小中学校との連携」というのはあるのですが、下野市は自治医科大学もあり、石橋高校もあり、自治医大ともだいぶ交流しているので、「高校・大学・専門学校との交流」も入れていただけるとありがたいかなと思いました。気が付いたところばかりですいません。今回、資料の作り方をものすごく工夫されて、前回からの変更点を赤字で記載しているのは、とても分かり易いです。大体これに回答するのに15分ぐらいかかりますよね。

(石田委員) 鈴木委員から色々中身についてありましたので、私は文言について、少し気が付いた点がありました。4頁に、「生かす」という字が出てきます。他は、「活」の字を使っています。何故ここだけ「生」を使っているのかなと思いました。ご検討いただければと思います。それと8頁に、「子どもや親を見てくれる人がいない」とありますが、これも統一したほうが良いと思うのですが、5頁では「子どもや親を見てくれる人がいない」が訂正になり、「家事や育児、介護などが忙しく時間がない」となっているので、統一を図ったほうが良いのかなと思います。それと10頁の間22の一番下に「分からない」とあります。他は平仮名で「わからない」となっています。やはりこの辺

は、役所が出す文書なので統一を図った方が良いと思います。それと9ページですが、回答欄が18-1、18-2となっているのは間違いですね。それと6ページの問14ですが、「市役所や公民館などの公共施設」とあります。回答のうち、たった一つのハード面です。あとは全部情報系の媒体なのです。ですので、市役所や公民館などのポスターとか展示場とかになるのかなと思うのですが、ここに「パンフレット・チラシ・ポスター」という回答もあるので、どうなのかなという気もします。それと、5ページの問10ですが、回答を「3つ以内」としているのは何か理由があるのですか。

- (事務局) これは新規の質問なのですが、前回のアンケートでも、回答数を限定している質問と複数回答可としている質問があります。
- (石田委員) 自分でチェックをつけていたら、「3つ以内」としているのはここだけなので、何か意味があるのかなと疑問に思いました。
- (高橋委員) 問21は回答を何個選ぶのですか。
- (事務局) ここは記載漏れです。申し訳ありません。
- (鈴木委員) 統計上、何か意味があるのかもしれませんがね。
- (事務局) どの市町のアンケートを見ても、回答数を限定する質問と限定しない質問はあります。
- (鈴木委員) クロス集計する都合上、限定したいものは絞っている、ということだと思います。
- (石田委員) 回答数を絞ったほうが集計はしやすい。複数になると、ほとんどチェックがつく場合もありますね。
- (事務局) 会議は今回が最後ではありませんので、本日ご指摘いただいたことは修正等を行い、次回お示ししたいと思います。
- (高橋委員) 職業の欄ですが、学校だと15時まで勤務などという非常勤の方もいます。パートや派遣ではない非常勤の方は「その他」につけることになるのですか。
- (事務局) 職業欄の記載内容は今後、検討させていただきます。
- (池澤教育長) 問6の、生涯学習に対するイメージの質問は削除してもよろしいですか。
- (一同) 異議なし
- (事務局) では、問6は削除させていただきます。
- (福田委員) 2,000人を無作為ということですが、ある年代に偏ってしまうということはあるのですか。
- (鈴木委員) 層化を行うのですか。
- (池澤教育長) この層から何人ということではなく、18歳以上をランダム、無作為に抽出を行います。特に何十代の方を何人ということではありません。
- (鈴木委員) 無作為だと、人口が多い南河内地区の意見が反映され、逆に国分寺地区の意見が反映されないという可能性もあります。層化を行うか行わないかは検討する必要もあると思います。
- (事務局) 統計上の確率的に、南河内地区だけが突出して多くなったり、20代だけに発送が集

中してしまうということは、相当の確率でないものと考えております。

(小島会長) 他になければ、次第5のその他に入ります。事務局よりお願いします。

5. その他

(事務局) 今後、本日確認していただいた来年度事業に対する提案を、10月中に各課へ通知し、それを考慮した事業計画の作成を依頼します。出来上がった事業計画は、来年3月に予定している第3回目の会議で皆様にお示しします。アンケートについても修正等し、次回お示しいたします。

6. 閉会